

◆重点普及課題

沖縄ミーバイの養殖および販売促進活動支援

水産海洋技術センター 牧野清人

1. 目的

沖縄ミーバイ（ヤイトハタ）の生産量は、平成21年度～26年度までは70t～90tで推移していたが、27年度には約56tと落ち込み、以降横ばいで推移している。販売単価はこの数年間でおおよそ1,300円～1,400円前後とほぼ安定し、県内外での需要に対し、生産が追いつかない状況となっている。県では安定生産に直結するヤイトハタ種苗の不足を補うため、平成28年度には、ヤイトハタに加え、チャイロマルハタ種苗が配付され、養殖開始した。水産業改良普及業務においては、養殖ハタの生産量安定化につながる飼育管理や魚病発生時の迅速な対応について指導を行っている。また、養魚の健全な生育と品質の向上を目指し、県産魚粉を主原料とした飼料開発と養殖試験を実施している石垣支所と連携し、県内飼料会社等との情報交換を行っている。さらに、県内外における販路の確保が必要となることから、平成24年度に発足した生産者、取扱業者等を中心とする「沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会」と連携した販売促進活動を支援している。

2. 取り組みの内容

①養殖指導

近年、南城市大里、宜野湾市、北谷町において、ヤイトハタの陸上養殖が行われており、現場確認ならびに魚病対策を含む養殖指導を行った。大里村においては、閉鎖式循環養殖であることから、飼育環境の水質検査について指導している。また、宜野湾市では、ウミブドウ養殖施設を利用した、掛け流しによるヤイトハタ養殖を行っており、銅イオンによる飼育管理に関して指導した。北谷町においては、29年度より

ヤイトハタ種苗を購入し、屋外での小規模な陸上養殖を開始している。

②. 県産魚粉飼料に関する情報交換

水産海洋技術センター石垣支所において、県産魚粉を主原料としたDP（ドライペレット）とMP（モイストペレット）を用いたヤイトハタの養殖試験について、石垣支所山内研究員より報告があり、漁協、石垣市、養殖業者が参加し、モイストペレット製造について視察した。支所ではヤイトハタの品質向上に向けた適正給餌技術の開発試験を行っており、県産魚粉を混合したMP給餌に餌付きや成長・生残といった飼料としての適正が高く、新たな飼料開発が期待できる内容であった。

③沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会支援

(1)役員会

10月11日、水産会館にて、第1回役員会が開催された。任期満了に伴う役員改選により、会長職を八重山漁協魚類養殖業者が、事務局を八重山漁協が担うこととなった。今年度予定していた生産者勉強会について、沖縄本島内にて、情報提供「県産魚粉を使用した餌料給餌によるヤイトハタの養殖試験について」「養殖魚類の防疫対策について」および与那城地区養殖場視察とした。その他、現在の養殖および出荷、流通の状況について意見交換された。さらに、情報提供として、水産海洋技術センター大嶋主任技師より、ヤイトハタの脂ののりについて、各魚種との比較およびヤイトハタの各部位ごとの脂についての分析結果について情報提供された。

(2)魚類養殖生産者勉強会

水産海洋技術センターおよびミーバイ協議会の共催により、沖縄市の産業交流センターに

において、魚類養殖生産者勉強会を開催した。内容は座学ならびに養殖施設見学であった。勉強会には魚類養殖業者、漁協関係者等を含め、15名が出席した。議題として、水産課より、水産用抗菌剤の取扱い等に関する新たな仕組みについて、水産海洋技術センター石垣支所より県産魚粉を主原料としたMP飼料を用いたヤイトハタ養殖試験について情報提供された。座学終了後、与那城桃原地区にて乗船し、新立氏の魚類養殖場（ヤイトハタ、チャイロマルハタ、スギ、マダイ）を見学した。

(3) イベント活動

1) 沖縄市JAファーマーズマーケットちゃんぷる一市場周年祭会場において、沖縄ミーバイ協議会による販売促進活動が行われた。会場では沖縄ミーバイのぼりやポスターを掲げ、パンフレット配布し、沖縄ミーバイの周知を図った。また、ミーバイ汁70食の他、唐揚げやジュシー等の販売を行い、すべて完売した。さらに、周年祭の企画の一つとして、小学生以下を対象としてミーバイのつかみ取りが行われ、多くの子ども達が参加した。

2) 花と食のフェスティバル

30年1月27日、28日に、奥武山公園にておきなわ花と食のフェスティバルが開催され、伊平屋漁協ブースにて沖縄ミーバイの加工品ならびにミーバイ汁の販売を行い、ポスター、のぼり、パンフレット配布によりPRを行った。

(4) 取扱店舗紹介

公式HPによる沖縄ミーバイのPR活動を引き続き行った。取り扱い店舗としては、飲食店18店舗、仲買業者1店舗を紹介している。また、フェイスブックにおいて、イベント活動等の投稿を随時行った。

(5) 総会

29年度収支報告、事業報告および、30年度収支計画、事業計画について検討した。また、任期満了に伴う役員改選を行い承認を受けた。次年度の計画として、取扱業者を対象としたヤイトハタの品質に関する勉強会や、各養殖現場に

おける在庫の状況についての情報共有が要望としてあげられた。情報提供として、水産海洋技術センター大嶋主任研究員より、沖縄ミーバイの脂乗り分析比較について説明がなされた。

3. 結果および考察

沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会が発足し、「沖縄ミーバイ」の商品名で販売促進活動、情報発信、販促活動ならびに複数回にわたる事業検討会を重ね、生産者および仲買業者を中心に安定供給や販売促進の取り組みが積極的に行われた。その結果、県内外で沖縄ミーバイの認知度が高まり、特に県内の観光ホテル等での取扱いが安定化している。しかし、生産量の伸び悩みや養殖にかかるコスト軽減は未だ課題として残されており、これらの解決に向け、引き続き取り組んでゆく必要がある。養殖生産量増に向けては、種苗導入後の飼育管理、魚病対策の徹底による生残率の向上や養殖業者を増やすことが重要である。また、養魚の栄養強化ならびに品質向上においては、県産魚粉等を活用したモイストペレット等による給餌技術の確立が注目される。これには協議会を中心とし、県や県漁連、漁協、飼料会社等との連携が必要となる。

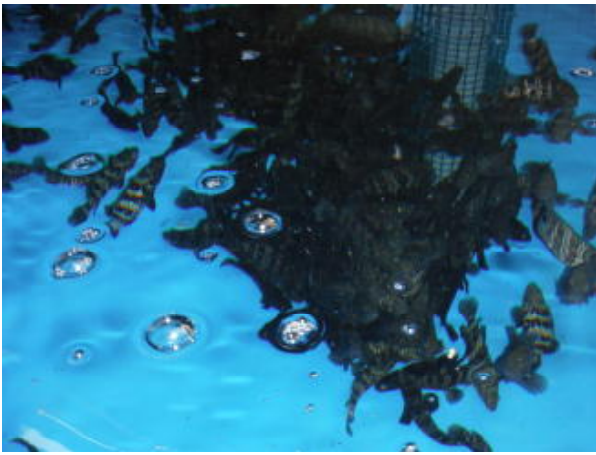


図1. 大里村における陸上養殖



図4. 県産魚粉MPによる養殖試験情報提供



図2. 宜野湾市の旧ウミブドウ養殖施設における陸上養殖



図5. MP製造工程について養殖業者に説明



図3. 北谷町の屋外陸上養殖



図6. 第1回ミーバイ協議会役員会



図7. 平成29年度通常総会



図10. 花と食のフェスティバル参加



図11. 花と食のフェスティバルにおける沖縄ミーバイ販売



図8. ミーバイ汁販売（ちゃんぷる一市場周年祭）



図9. ミーバイつかみ取り（ちゃんぷる一市場周年祭）



図12. 生産者勉強会



図13. MP給餌ミーバイの試食